

大分県道州制研究会「大分から九州を考える意見交換会」議事録

開催日時：平成22年10月5日（火）13：00～15：00

開催場所：大分県中津総合庁舎 3階大会議室

出席者：（委員）高橋靖周、足利由紀子、小手川強二、高橋祐幸、西村昭郎、
村上和子、幸重綱二（敬称略）

- （青年層）A 大分県商工会青年部連合会
B 大分県商工会青年部連合会
C 大分県商工会議所青年部連合会
D 大分県商工会議所青年部連合会
E 大分県中小企業団体中央会青年部会
F 大分県中小企業団体中央会青年部会
G 大分県農業青年連絡協議会
H 大分県連合青年団
I 日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会
J 日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会
K 日田青年林業会議所
L 日田青年林業会議所

（事務局）大分県行政企画課 中垣内課長

（事務局）

皆さんこんにちは。日田からお見えのLさんとKさんがこちらに向かっておりますけれども定刻になりましたので開催させていただきます。

ただ今から大分県道州制研究会によります「大分から九州を考える意見交換会」を開催します。はじめに、大分県道州制研究会高橋座長からごあいさつをお願いします。

（高橋座長）

皆さんこんにちは。座長の高橋でございます。皆様におかれましては、ご多用の中にもかわりませず、意見交換会に参加いただきまして、誠にありがとうございます。

初めてお会いする方もいらっしゃいますので、まず、私の自己紹介をさせていただきます。私は今、大分銀行に勤務しております。頭取、会長を経まして、この4月から取締役相談役に就任しております。財界活動としましては九州経済連合会というものがありまして、その大分県の代表で、副会長を務めさせていただいております。

さて、「大分県道州制研究会」は、平成19年10月に設置されました。「道州制」とは、一言で申しますと、例えば大分県というエリアを廃止して、九州全体で一つの大きな地方自治体、道とか州を作りまして、単独の県ではできなかったような大きな政策を進められるようにしようというプランです。この研究会では、このプランをたたき台として、大分という地域はどうあるべきかについてということにつきまして議論を重ねて参りました。その中で、今年は限られたメンバーだけでなく、いろいろな方々、特に将来を担う若い方々との意見交換会を開催しようということになりました。

第1回目は、8月に県内の大学・短大生にお集まりいただき、大変有意義な意見交換会ができたところでした。本日はその第2回目といたしまして、県内の青年団や商工、農林関係などの青年層の方にお集まりいただきました。この後のスケジュールといたしましては、

市町村長や一般の方々との意見交換会も予定しております。いただきました貴重なご意見は、当研究会の報告書としてまとめたいと考えております。

私も次世代を担う若い方の話を大変楽しみにしております。率直なご意見等をいただきますようお願いしまして、簡単ですが、開会のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、皆さん初対面でございますので、自己紹介からお願いしたいと思います。まず委員から自己紹介したいと思います。皆さんから向かって左側の足利さんからお願いします。

(足利委員)

こんにちは。道州制研究会の委員をさせていただいています足利と申します。中津市でNPO法人水辺に遊ぶ会の理事長をしています。私もこの議論はほとんど素人で、よく分からないままです。ただ、環境の活動をしている一市民として道州制というものがあるべきかを勉強させていただきながら、参加させていただいています。今日はよろしくお願いします。

(小手川委員)

フンドーキン醤油の社長をしています、小手川でございます。私57歳で、ついこの間まで若手経営者と呼ばれていたのですが、いつの間にか年寄りになりました。私自身は57年間のうち、東京に10年、福岡に3年、計13年大分県以外に住んでいたのですが、44年間は地元の臼杵で暮らしていますので、道州制についてもこのような研究会を通じて勉強させていただきたいし、良い経験ができればと思っています。今日は皆さんのご意見を楽しみに聞かせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

(高橋祐委員)

高橋でございます。祐幸(ゆうこう)と大変珍しい名前でございます。私はこの10月1日で大分県民歴が丸8年、9年目に入ったところでございます。その前は兵庫県、大阪府、北海道、秋田県、こんなところにいまして、現在は住友化学大分工場に勤務しております。昨年、研究会の委員になりまして、皆様方のお手元にあります資料ですとかホームページを見たりして、道州制とか地域主権を考えながら参加させていただきました。皆様の意見も伺わせていただきまして自分なりの考え方をまとめて参りたいと思います。今日はよろしくお願いします。

(西村委員)

皆さんこんにちは。西村と申します。JTB九州大分支店の支店長をしております。生まれは長崎なんですけれども、大分県民歴21年目になります。ほとんど大分ばかりでございますけれども、今日は皆さん方と一緒に色々教えてもらいながら、考えを一にしていきたいなと思います。よろしくお願いします。

(村上委員)

こんにちは。村上と申します。よろしくお願いたします。私は社会福祉法人シンフォニーというところで理事長職に就いています。私も何年か前には社会福祉施設の若手経営者の一人だったんです。それで、青年の経営者協議会を立ち上げようということで、私にその役が回ってきまして、その時49歳で、協議会の立ち上がったのが50歳の時でした。協議会の加入年齢は50歳まででして、立ち上がった途端、加入できずに終わったという

思い出があります。本日は若い方が大勢集まっていたいただいて、ご意見を聞くのが楽しみです。どうぞよろしく願いいたします。

(幸重委員)

皆さんこんにちは。大分交通の社長をしております、幸重でございます。この道州制研究会の委員を拝命しているんですが、本職は大分交通という交通業をやっております、大分県経営者協会の協会長という職をもらっております。さらに大分市の観光協会長という職ももらっております、そう言った意味から、交通インフラ、それから観光の問題そういったものを含めた中での道州制のあり方といいますか、そういったことにどう取り組んだらいいのかという提言や意見を聞かせてもらっているところです。今日は皆さん方からご意見を聞かせてもらおうと思うんですが、特に観光や交通ということになるとご意見がたくさんあるんじゃないかなということで拝聴したいと思っております。よろしく願いします。

(高橋座長)

どうもありがとうございます。それでは、青年層の皆さんにお願いしたいと思えます。お隣のGさんから、役職名、お住まいの市町村名をおっしゃってください。座ったままで結構です。

(G)

私、宇佐市でぶどうをつくっておりますGと申します。大分県農業青年連絡協議会は大分県の農業者の後継者、20代30代の人が集まって資質の向上やネットワークづくりをしている会です。今年度119名の会員で九州の中では一番少ない人数です。少ないながら色々活動してまして、大分県の中でも頑張ってる色々活動している若手はいるんだぞということをPRしながら活動しています。私は、宇佐市の三和酒類さんの本社工場の前でぶどうを2町5反つくっております。専業で就農9年目になります。道州制の話がありましたときに正直言って何も考えていませんでしたが、今後考えるべきことだなということもあり今回参加させていただきました。いい意見が聞ければいいなと思っておりますし、せっかくこういう若いメンバーが集まって意見交換ができるので、今後もこういう機会があれば是非開催して欲しいなと思えます。今日はよろしく願いします。以上です。

(H)

大分県連合青年団のHといいます。年は34です。大分県連合青年団というのは県内の若い人たちを集めて社会教育ということをやっています。かなり大雑把なんですけれども社会教育を通じてまちづくりをやっている団体です。道州制研究会ということなんですが、全く分からないんで意見を聞いて勉強になればと思っております。今日は呼んでいただいてありがたいんですが、事務局の方にも先ほど言ったんですが、この時間帯ですと経営者の方しか来ることができないので、青年層と言うことであれば時間帯を変えた方がよいのではないかと感じています。どうぞよろしく願いします。

(I)

こんにちは。日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会のIと申します。住まいは臼杵市です。道州制については、2006年に上部団体の日本青年会議所九州地区協議会で九州構想というのを考えていまして、地域構想2010ということで、5カ年計画の道州制について勉強しているまっただ中で、いい勉強になるのではないかと思いますので参

加いたしました。より良い会になることを期待しています。どうぞよろしくお願いします。

(J)

改めまして、公益社団法人日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会のJと申します。よろしくお願いします。臼杵市から参加しています。市町村合併について、日本青年会議所でも1999年に日本の中で市町村合併をどうしたらいいかということで、日本絵巻というものをつくりました。大分県内でもこういうところが合併するのではないかということ資料としてつくらせていただいて、今度は道州制ということで先ほどIが申しましたように青年会議所でも色々と考えていますので、そういった意見を話せればと思っています。よろしくお願いします。

(F)

別府から参りました、大分県中小企業団体中央会青年部のFと申します。私自身は中小企業というところではなくて、零細企業、美容室を運営しています。もう一つ商店街連合会の仕事もしております、商店街の問題もたくさん抱えていますので、そういった問題も勉強させていただこうと思っています。よろしくお願いします。

(E)

皆さんこんにちは。同じく大分県中小企業団体中央会青年部のEと申します。我々中央会といいますのは、組合等の団体の集まりでして、青年部は主に人づくりの活動を中心に行っています。先月は大分で九州ブロック大会を開催しまして九州はひとつという名の下に各県との交流を深めたところでございます。今日は道州制を考えるということで、大分県がどのように九州とつきあうか、九州をどのように発信していくのかを皆様と考えたいと思います。よろしくお願いします。

(B)

皆さんこんにちは。大分県商工会青年部連合会、中津市しもげ商工会青年部のBと申します。よろしくお願いします。家業は小さな和菓子屋をしております。私たちの商工会青年部というのは私と同じ後継者若い経営者が所属している団体で、中津市が合併する前の旧郡部4つの町村の後継者経営者が所属している団体です。3年ほど前に商工会の合併がありまして4つが1つになって、今の形となっております。道州制という話を聞いたときに、ある種、道州制に対する知識や思いはあまりなくて、今日この場で勉強させていただければと思って参加させていただいております。それと同時に、合併して3年経ちますが、今日の会が商工会青年部の役に立てばと思っています。よろしくお願いします。

(A)

皆さんこんにちは。大分県商工会青年部連合会のAと申します。住まいは豊後高田市です。合併前は香々地町といって、長崎鼻や青少年の家があるところです。私も道州制ということについては考えたことがなくて、この資料が送られた時にこれを見て勉強したいなと思った次第です。これを機に色々な人とお話をしながら道州制を勉強したいと思っています。よろしくお願いします。

(D)

皆さんこんにちは。大分県商工会議所青年部連合会、中津商工会議所青年部のDと申します。本業は昔ながらの鍛冶屋、刃物屋をしております。業種自体が少なくなっています。

て、県内でも10社無いくらいで、後継者問題でまだ減っていきたくらいという感じです。大分県とか福岡県とかそういう境がなくなるというのは個人としてはありがたいのですが、市町村合併で市町村のエリアが広がっているのも、これまでのことを継続しながら新しいことをやっていくのは中々難しいのかなという風に考えています。以上です。よろしくをお願いします。

(C)

皆さんこんにちは。大分県商工会議所青年部連合会のCと申します。竹田市でLPガスの小売り、建設業、管工事業を営んでおります。大分県商工会議所青年部連合会では、10月1日の金曜日に大分市の中央町で空店舗を活用してお店をオープンいたしました。大分県下それぞれの地域の特産品を集めまして、売るということです。それぞれの地域で、ものはつくけど販売するところがないというのが悩みがございまして、その解決に役立てばと思っております。大分県の地域がどうあるべきかということも一緒に考えていきたいと思っております。よろしくをお願いします。

(高橋座長)

ありがとうございました。まだお二人お見えになっておりませんが、お見えになり次第自己紹介をしていただこうと思っております。それでは次に本日の意見交換会の進め方について事務局から説明をお願いします。

(中垣内課長)

皆さんこんにちは。担当課長をしておりますの中垣内と申します。ちなみに出身は兵庫県神戸市でございます。よろしくをお願いします。本日の進め方でございますが、次第という一枚紙をお配りしております。こちらに沿ってということになります。この後、事務局の説明ということで、お手元に配布しています資料をご説明して、道州制の基本知識といったものをざっと説明した後、意見交換を1時間20分程度行いたいと思っております。終了は15時を予定しております。以上でございます。

(高橋座長)

ありがとうございました。続きまして意見交換に移りますが、意見交換の材料として、お手元に資料をお配りしておりますので、事務局から説明をお願いします。

(中垣内課長)

～資料説明～

(高橋座長)

ただ今、日田からKさんとLさんが到着されましたので、自己紹介をお願いします。

(K)

遅くなってすいません。Kと申します。中津日田道路がまだできていませんので間に合いませんでした申し訳ございません。林業をやっております。日田林業青年会議所というところで、山林所有者や製材所とか木材市場、建築士達のグループで、今日は代表して2人で参りました。私は前津江というところで、植え付けから伐採までをやっております。山を利用して林間のわさびを栽培しております。人口はどんどん減っていますが、なんとか山間地で暮らしていけないかということで林業やわさび栽培を通してがんばっています。

す。今日は道州制と言うことで余り分かりませんので、勉強させていただこうと思いで参りました。よろしくお願ひします。

(高橋座長)

それじゃあ、Lさん。

(L)

皆さんこんにちは。遅れて申し訳ありません。私はKさんと同じ日田林業青年会議所に所属しております。製材所を経営しております、杉の内装材等を製造している事業者です。日頃は水環境ネットワークセンターで洗濯キャラバンやNPO日本の杉檜を守る会とかで林業の発展、復権を目指して日頃からそういった社会活動をしています。私自身、道州制というのはよく分かりませんが、これからそういった変化をしていくんだろうという思いの中から本当に勉強させていただくために参加させていただきました。よろしくお願ひします。

(高橋座長)

はい、ありがとうございました。

今、事務局から資料「大分から九州を考える」の1ページ目を開いたところを説明しております。引き続き事務局から説明をお願いします。

(中垣内課長)

～資料説明～

(高橋座長)

どうもありがとうございました。みなさんから所属されている団体、それから個人的な体験などを絡めましてご意見をお伺いしたいと思います。委員の皆さんには色々な意見があると思いますが、本日は青年層の意見を聞くというのが主眼でありますので、そのところをよろしくお願ひします。残り約80分あります。青年層の方は一人当たり3分以内ですね。委員の方は一人当たり1～2分以内ということで発表を順次していただきたいと存じます。まずは青年層のGさんからお願いします。

(G)

はい、Gです。何から話していいかと思うんですけど、メリットデメリットということで農業の面から考えますと、大分県では昔から一村一品ということで各地方にいいものはあるんですけど、九州の中で見るとロットが少なく、ブランドがなかなか難しいという現状になっています。九州はひとつという中でロットを揃えていくと日本なり世界なりに対抗できる量は揃うかなあと思うんですけど、品質を統一するのは難しいです。例えば鹿児島であれば黒豚だったり、ぶどうは福岡が1位です。九州の中で集まるとその中で優先順位がつけられて、自分のブドウは下の方のブランドになってしまう。個人としては、宇佐・安心院はブドウの産地で、県内では1位になれるので、道州制にならない方がいいと思うのですが、品種にもよりますし、畜産だったり、各県で持っているブランドをどうしていくのかという議論になっていくのかなと思います。宇佐はぶどうは大分県1位です。柚子は西日本1位です。いちごも西日本一の面積を持っています。宇佐市は農業基盤の市だと思っていますが、それが九州のひとつの市になってしまうと、宇佐市の魅力というのは中々見えてこなくなる、曇ってしまうのではないかと思います。以上です。

(H)

3つほど項目があつて。まず青年という括りでやっているとは思いますが、うちの団体以外は商工かなと思うんです。私も経営者の端くれですが、青年というのは商工なのかなということと、資料について「中」の資料だけなので、「外」の資料が必要ではないでしょうか。海の中で船のライトを照らしている状態で、我々青年層が考える羅針盤みたいな、灯台がないので見えないというのがもう一つあります。3番目は私は観光とかやっております。道州制を考えると、一次交通とか二次交通とかどの辺で区切るかとか議論していかないといけないのではないかとということ。後は病院、救急医療、どちらかということ九州や大分は田舎になるので、救急医療の問題が出てくるだろうなということ。あとは市町村合併の時にあったのが学校の統廃合。県が合併になると影響があるのは、県に所属するような高等学校とかが変遷してくるのかなと思います。以上です。

(I)

道州制については、青年会議所の中で話してきているので、その中では道州制ありきで考えており、デメリットは基本的に考えていません。道州制になることで地域の光が失われていくのではないかと意見もあるのですが、大分の一村一品のような形で九州で一つのブランドをつくって「九州の何々」という形でPRしていけばもっと具体的になるのではないのかなということ。経済的にも人材の育成においても九州が一体となって、地元大分だけを考えていくのではなくて、九州全体を考えることでもっと明るい、極論を言えば独立国になる位に九州の力はあるのではないかと我々は考えていますし、地理的にも中国やアジアに近いので港湾や空港など運輸などがうまくいけばいいんじゃないかなと考えています。具体的に今年度から2015年までの間色々なことを実施して、本年度と来年度においては、九州ブランドを何か一つでも二つでもつくって外に発信していけたらなと思っています。本年度は、今月から来月には九州構想アクションプランの2010年版を発表したいと思っていますので、出せるようになりましたらこちらのほうにも提供していきたいと思っています。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。次にJさん、お願いします。

(J)

青年会議所の考えはIが述べましたので、私は個人的な意見を言わせていただきます。道州制を考える時にどうしても一般の市民というのは中々距離があつて、どこから話をしたらよいかと皆さん考えていると思います。そう言った意味でこういった会議が何回か開かれ、意見が集約されていると思うんですが、こういう会議で選ばれるメンバーはどの会でも大体一緒のような形で選ばれてきていて、本当に広く市民県民の意見が得られているのかなというのが難しいのではないかと思います。

今の一極集中で東京の方、大阪の方、福岡の方というのが道州制を考える上で出てくると思います。九州では今のところ、福岡というのが頭に浮かぶと思いますが、大分のことを考えれば、州都を大分に持ってこれないかという意見もあると思います。道州制を進めるのであれば、まずは大分県内で意思統一を図って、大分県がリーダーシップを発揮して九州をまとめていく位の話をしていかなければ、なかなか難しいのではないかと思います。

各種団体の青年部にそれぞれ、全国組織があつたり、九州の組織があつて、各種大会が

毎年行われると思いますので、その中で話しあう場を持っていただくとか、情報共有していただくとか進めてはどうかと思います。道州制になるとどうしても自己責任とか自分たちの地域は自分たちで考えていかないとということが出てくるとと思いますが、情報が皆さんに伝わっているかといいますと、なかなか情報開示が難しいと思っていますので、責任というのであれば県・市町村がそういうところの情報開示をやっていただくのがよいと思います。最終的には国家の話になってくるとと思いますので、ある程度国の方で縄張りを決めていただいて、おろしていただく方がわかりやすいというか、話が早いのかと思います。

(高橋座長)

ありがとうございました。それでは、日田のKさんお願いします。

(K)

道州制の是非については答えを持ち合わせておりませんので言及できませんが、私たちの住んでいる日田市は県境です。福岡、熊本と接しております。林業、農業をやっている中で目に見えない県の壁を感じています。それは制度の壁であったり、販売の壁であったり、ただ、日田は大分県でありながら水は福岡に流れますし、文化も経済も福岡圏域になっていると思います。道州制になって、その圏域が取っ払われると、個人的には非常に自由になるなという気がしております。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。Lさんお願いします。

(L)

Kさんの話と多少似かよいますが、私もよく車で移動しますが、仮に日田を州都として考えました時に、九州全域を日帰りして回ってこれる地域ですので、いろいろな情報伝達など、その地域に行って速やかに行動を取れるという面ではメリットがあるのではないかなと思います。九州は独特な観光資源とか色んな資源が豊富であろうと思いますし、一つの国としてとらえた時に、道州制は前向きに考えていく価値があるなと個人的には考えています。

(高橋座長)

ありがとうございました。Fさんお願いします。

(F)

私もJ Cの方で道州制は勉強してきました。Iさんが言われたように道州制ありきだったので、あまりデメリットを深く考えたことはありませんでした。今回初めてデメリットの意見に触れて、そうだなあと感じたところです。一番問題だと思うのは、市町村の権限も増えるとの例が資料に出っていますが、本当に市町村が対応できるのかなあとと思います。市町村の権限が拡大した時に、市によってはその権限を背景にした不正といったようなことが起こるのではないかということも考えられます。一挙に道州制ということではなくて、県としての範囲も残しつつ、徐々に移行するのがよいのではないかと思います。一極集中をなくしたり、財政の効率化を図るというのは、これだけ国の借金があつたらせざるを得ないのかなと思います。九州は九州王国ということで一つになれば、独自の貿易なども考えて、九州だけで国のGDPを押し上げられるような施策をとれるのではないかと思います。

(高橋座長)

ありがとうございます。Eさんお願いします。

(E)

まず、私の考えは道州制、そして市ということになると、行政のことを考えなくてはなりません。市は市民のために、県は県民のために、国は国民のために行政をやっているのですが、県がなくなり州となると、かなり広い範囲の行政区域となり、はたして本当に州民のためになるのかということが不安材料になります。今でも、税金が足りないということで、市町村合併しまして、町村の古い体質のところは若者が旧市に流れて、ますます高齢化が進み、第一次産業が廃れていっているという現状です。大分県が合併した時に、大分市は臨海工業地帯というパイを持っていますが、それから離れたところはますます厳しくなっていくのではないかとの懸念があります。先ほど日田の方が仕事面では県単位の枠を外してもらった方が仕事がしやすいと言っていました。我々にとっても同じことで、役所の仕事をとろうとしたときに、大分県の仕事は取りやすいんですけども、宮崎県など他県の仕事は取りにくいという面はございます。経済面においては、県の垣根は要らないと思いますけれども、市民サービス、行政サービスの面においては、州でなく県単位、今までどおりがいいんじゃないかなと感じています。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございます。Bさんお願いします。

(B)

道州制について、肯定派か否定派かという難しいのですが、あまり否定的なことばかりに考えても始まらないと思います。市町村合併で下毛地区がどうなったかというところ確かに行政サービスが低下したという意見もあります。以前は、三光、本耶馬溪、耶馬溪、山国は地元の人が役所にずっと勤めている方ばかりだったので、ある種役所と住民の方とのなれ合いが多々あったという話を聞いています。ただし、中津市になって3年4年経つにつれてどんどん異動を繰り返し、地元の人がその支所にいないということになっています。それでどうなったかというところ全て公平になったんですね。こういう手続きをしないといけなく面倒くさいということが町村の住民にはありました。手続きを踏まなくても済んでいたことが、しないといけなくなった。でもそれが当たり前なんですね。都市部は当たり前のことをやっていた訳で、それがサービスの低下だということはおかしな話です。道州制は大きな話ですが、デメリットばかりをあげていくときりがない。デメリットが生じた時にどう対処していくか、いい方向に持って行くということが大切ではないかと。そうすると必要な時間というのがありまして、決して急ぐべきではないと思いますし、かけるべき時間はかけるべきで、着実に進んでいくべきだと思っています。経営者の視点で考えますと、ここ数年地産地消ということで地元のものを使ってお菓子を作らないかとメーカーからも勧められたりしますけれども、実際は、何でも地元のものを使っていいのかという話になるんです。地元でとれている栗がいいかということで試してみると、そうでもない。二次加工業者としては競争なので、高い次元のもの、厳選したものを使わなければならない。それが他県にあるのならば、取り寄せるべきだし、品質を落としてまで県内のものを使うべきではないと思います。ブランド化をする時に自分たちでしっかりしたマイブランドを作るべきだと思います。道州制で県がなくなったとしても、事業を自助努力でしっかりとしておけば、デメリットが多少あったとしても立ち向かえるような強さを養え

るようになると思うし、広くいい意味で自分のところのお菓子を九州として発信していくとか、もっと発展的な考え方をもてると思うんです。自分自身の事業でも、商工会のレベルで考えても道州制は決して悪いことではないと思います。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございます。Aさんお願いします。

(A)

道州制に関しては、賛成とも反対ともこの資料を見ながらでは言えない状況です。メリットの方を見ると、確かに人材の育成とか確保があります。地方から都市の方に流れていく中で、田舎に住んでいる若者が地元で就職して人口の減少に歯止めをかけられるとかであればメリットも大変いいんですが、人間はいい方より悪い方を見る方の意識が強いと思うので、市町村合併でも懸念された住民サービスの低下とかは、資料にデメリット「住民サービスの低下」とだけ書くのではなくて、この中で具体的にどういうことが懸念されるのかももう少し分かるようにしてもらいたかったと思います。これから何度かこういう意見交換会を持つというのであれば、いきなり意見交換ではなくて、初回は1時間か2時間位の勉強会をしてもらって、道州制というものがどういうものかつかめてから、次の回で意見交換会を持つのがよいのではないのでしょうか。私も道州制というものがつかめていませんので、そういうことができるのであれば考えていただきたいと思います。私の住んでいる香々地町は、中津でも大分でも出てくる時に、道の状況が良くないところですので、道州制で九州を一つにするとと言われてもピンと来ない住民が多いと思います。まずは、道路の整備をするとか、日田の方が言われたように中津日田道路の開通をもう少し早くして、企業誘致とか、他県の方との交流をしていくのがよいのではないかと考えています。

(高橋座長)

ありがとうございます。Dさんお願いします。

(D)

地方の商店街が衰退している問題があると思います。中津日田道路ができますと、お客が入ってくるというプラスだけを考えますが、実際どうなるかということ、中津から福岡に出ていく方が多いのではないかという意見が多くて、日本の現状を考えると、道州制はしょうがない面がありますが、そういう面をきっちり考えていかなければならないと思います。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございます。Cさんお願いします。

(C)

道州制を考える上でいくつか問題点があると思います。1つは中央の権限を基礎自治体に移譲するということですが、受け皿となる基礎自治体づくりが進んでいないのではないかと考えています。例えば姫島村は2200人の島ですが、役場の皆さんが権限を持って治めることになります。国は10万人規模の自治体を想像しているようですが、10万人単位というところと今後もさらに市町村合併を進めていくのか、合併がよいのかという問題もあると思います。道州制の意義を共有していこうということでイメージをつくっていくことも良いのですが、そういうところも議論していかなければならないと考えています。

もう一つは効率を考えた社会をつくっていかうということで、今日の資料の中にも、自己決定や自己責任や自己負担という言葉がありますが、経済中心主義の臭いが漂って仕方ない訳です。自立を指向する住民意識を育てると言いますが、支え合い関わり合いながら人は生きているものですから、私は、そういう他者への働きかけを尊重するような論調が本当はいいんではないかなと思っていますので、その辺に違和感を感じています。

最後に、基礎自治体の中で住民自治意識の向上を図らなければならないと思っています。平成の合併の反省を、今回長野委員が指摘されていますが、明治・昭和の大合併が、小異を捨てて大同につくという集権的な合併だった訳なんです。平成の合併はやはり小異を大切に大同につくというような、小異を大切にする、それぞれの地域の暮らしを大切にすることとは何なのかということを考えながら、今後の地域づくりをしていかなければいけないのではないかと考えていますので、そういうところが道州制の議論の中で足りないのではないかと感じています。以上です。

(高橋座長)

どうもありがとうございました。以上で青年層の皆さんのご意見はまず一巡目でお伺いしましたが、この後、委員の方に一人当たり1～2分でコメントをいただきたいと思いません。

まず、足利さんお願いします。

(足利委員)

3年間、研究会に参加させていただいていますが、道州制にはよい所も悪いところもあって、まだまだ議論が足りないし、県民に対する周知もこれからなのかなあと考えております。先ほどGさんから九州ブランドの話があったんですが、私も中津で漁業者の方とおつきあいさせていただいて、中津では海苔もつくり、カニも獲っていますが、九州の中では、有明海の手巻海苔とか竹崎のカニとか大きな産地には勝てないんですね。いくら漁業者の方がいいものをつくっても、水揚げしても、大きな産地には勝っていけない。だったら、地域でブランド化して、よそとは違う差別化をしながら小さな生産地でも頑張っていこうというのが、仲のいい漁業者の方たちと課題として話をしているところです。そういう意味でGさんやBさんの話はよく分かるなと思いました。道州制がいいとか悪いとかではないんですが、もし、道州制が敷かれたとしても私が住んでいるところは変わらなくて、道州制になったからといってどこかに移動してしまう訳ではないので、自分の住んでいる町とか集落とか産業の地域力をどうやって高めていくか、どういう状況になっても生き残っていくためにどうしたらいいのか、どういう力をつけていったらいいのかっていうのが道州制の議論の中で求められるのかなと思っています。

(高橋座長)

ありがとうございます。小手川委員お願いします。

(小手川委員)

皆さん方から多種多様なご意見が出て、道州制の話はまだまだ煮詰まっていないという感じがします。私自身はこの研究会ですとか、九州経済同友会の九州は一つ委員会とか、あるいは全国同友会の道州制に関する委員会の報告書を見ているし、国の行財政改革委員会とかの中でも、自民党の政権時代に研究されたいろんな報告書が出ています。ところが、それが民主党になって、今は休業状態で、国の方はさっぱりどうなるのか分からない状況なんですけれども、ただ、そういう中でも国の方が何らかの方針を出した時に地方の

方が十分勉強や準備をしておかないと対応できないということになりますので、こういう勉強会の意味は非常にありまして、特に大分県知事が期待しているところはそういうところで、いろんなことが考えられるので、やっておくべきだと思います。私自身は、競争と共生という社会になっていて、地方では、自分たちが住みやすい町、働きやすい町にしなければならないし、その一方で、他の国内の地域、海外と競争していかなければならない、そういう中でどういう選択、社会システムがやりやすい、競争する上で戦いやすい制度なのかなど。例えば海外の企業が、工場をどこかに造りたい場合に、日本がいいのか、中国がいいのか、インドがいいのか調べるわけですが、今はそこで日本は負けている訳です。企業が立地する上で、日本はいい国じゃないと。そういう状況があるので、そういう意味でも、日本に欧米の企業が来る、九州に来る、九州の中でも今の大分県が資本主義の中で一番適した地域であると思われるようにしていかないと国際社会の中ではやっていけないのではないかと考えています。

(高橋座長)

ありがとうございます。高橋委員お願いします。

(高橋祐委員)

皆さんの意見を伺いまして思いました。自分は秋田県生まれですが、なぜ大分県にいて、皆さんの意見を伺っているのか。私も生まれたところで育ち働き、親の面倒を見てという風にしたかった訳ですが、それができなかつた。その理由の一つに、東京への一極集中等があるのではないかと思います。九州はもちろんですが、大分県も特色があります。工業もあり、商業、農業、力を持ってがんばっている。こういう土地ですとずっと過ごしていられるというのは幸せなことだと思います。どんな行政単位であってもきっと住んでいるところは変わらないと思いますので、先ほど皆さんがいていたデメリットをメリットに変えていけるような地域のあり方を目指して議論を深めていきたいと思います。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございます。西村委員お願いします。

(西村委員)

私の仕事の関係で触れてみたいと思います。日本国中どこも人口が減ってしまっていて、この自治体も交流人口を増やしていこうとしています。東京都港区でも観光客が減っていて危機感を持っているくらいです。まずは海外からお客さんをお呼びしようと、どこの自治体も思っているのですが、現状は各県別に中国の旅行社に行って、そういえばさっき熊本県が来ましたよ。この後すぐ長崎県が来るんですね、といったことが現状です。ただ、海外の人は圧倒的に全体で見えていますので、今は中国の人が日本に来る場合は、一番は東京、そして大阪、北海道なんです。大分がいくら誘致しても、大分には1泊しますけれども、その後は東京に行ってしまうんですね。やっぱり大分と東京と喧嘩・競争しても中々勝てない。やはり九州は一つの九州ブランドというので海外の誘致をするのは大事なことかなと思います。国内旅行も誘致をしていますが、3月12日に九州新幹線が開通することになっています。今は久留米も熊本も鳥栖も鹿児島も、個別に西日本にプロモーションに行っているんですね。そういう状況ですけれども、これからは観光プロモーションであれば、九州ブランドで行くべきじゃないかなというのも思っています。隣の県を出し抜いたり、隣の県の足を引っ張るという時代ではなくて、競争はしなくちゃいけないけれども、共生をしていくということが観光誘致の面では今後は必要かなと思いました。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございます。村上委員お願いします。

(村上委員)

国会中継を見て感じるのですが、熱心に様々な議論がなされているのですが、物理的にも意識的にも私たちの生活実態から非常に遠いところで、ゆっくりと議論されているような気がして、非常にもどかしい思いをすることがあります。福祉分野なども全国一律のサービスが出てくるんですけれども、どうしても人口が少ない地方、インフラが整備されていない地方では成り立たないサービスもたくさんあって、目の前にサービスが必要で、困っている方がたくさんいるのに、実際にたくさんの種類のサービスが生まれても地方では展開できないということもあります。やはり暮らしに直結することについては、住民にできるだけ近いところでそれぞれの地方の実態に即した形で決定できる仕組みが、こういうスピード感のある時代では必要なのかなと考えております。以上でございます。

(高橋座長)

ありがとうございました。幸重委員お願いします。

(幸重委員)

先ほどデメリットを余り考えていなかったという話がありました。道州制というのはメリットも大いにあるし、デメリットもあると資料にも書いてありまして、私たちも3年間議論してきた中でデメリットが出てきた訳ですが、さてそのデメリットが出てきたということはどういう風にとらえて、どうするかという段階に来ているのではないかと思うんです。ここでいう地域アイデンティティの問題とか文化、個性の問題ですね。これをそれぞれを残すとしたらどういうあり方だったら残るのだろうかとか、村祭りとかを振興していくことで守られていくのではないかとの思いが一つ。

もう一つは地域間格差の拡大とか、これは交通問題が出てくると思うんですが、東西の交通格差がありますね。特に中津に来てビックリしたんですけれども、中津は日田までの道路が完全に整備されていません。中津から小倉までもそうですし、県都の大分までも完全に高速道路としての整備がされていませんね。インフラがこれだけ遅れているという問題が道州制の問題に限らず、はっきり出てきた訳ですから、道州制とは切り離してもですね、私たちが今もっと取り組んでいかなければならない優先課題として、再認識する場に来ているのではないかと思います。道州制が実現して、どこかに州都ができた時に大分はどのような風になるのか。大変な問題になるということは、目に見えて分かる訳ですから、今の内からこういったところの整備を進めていく、目に見えてスピードアップしていくということが大事ではないかなと思います。

(高橋座長)

ありがとうございました。出席はしていないんですが、長野委員から意見書が出ています。全文読み上げると時間がかかりますので、要点を事務局の方から説明してください。このペーパーは皆さんにお配りしているんですよ。

(中垣内課長)

はい。お配りしています。大分県道州制研究会委員長長野健と書かれたペーパーです。かいつまんでご説明いたします。

まず、県民の視点をという段落であります。ここでは片山総務大臣が道州制実現の道筋が見えない理由として、住民の視点が欠落しているからだ、と言われていることを引用して、大分県道州制研究会も県民の視点が欠落しないようにして欲しいということ。

続きまして、札幌一極集中の弊害ということで、道州制になると州都に人口その他が一極集中して、その他の地区が衰退することは北海道札幌市の例を見ればよく分かるということでもあります。それを九州に置き換えると、九州では今でも福岡一極集中なのに、州都になるとその弊害がエスカレートする。対照的に大分県は周辺部になって衰退するのではないか、衰えるのは必至だというご意見です。

次のページに移りますが、九州各県では個性が強く遠いという所です。九州各県では言葉も違い、話も合わない。道州制は各地域で長年かけて育んできた文化を破壊する。九州ではいろんなテーマに沿って各県が連携し、うまくいく努力を積み上げるべきだということです。道州制と言うことをいきなり出してきて無理矢理合わせろと言うのは乱暴だ、もっと地道な努力をすべきだというご意見です。

その下、市町村合併の弊害というところですが、市町村合併を道州制の教訓として検証すべきだということ。それから次の段落、市町村合併で旧郡部の人口がかなり減ったが、道州制になればさらに拍車がかかるのではないかとということです。結論として、県から道州制になると行政や議会が遠のくなど、民主主義が低下するというご意見でございます。以上です。

(高橋座長)

最後に私の意見を簡単に述べさせていただきます。この道州制研究会はですね、資料の8ページにありますように、初めから道州制ありきではなくて、県民の視点から道州制のメリット・デメリットを検討しながら大分県の発展可能性、九州全体としてのビジョンがどう描けるのか等について調査研究をしようということなんですね。

私は、道州制を考えるときに、もうちょっと違う観点でも考えています。それはどういうことかといいますと、今、日本がどんな立場にあるかということは皆さんよくご存じだと思いますが、余り国としての力がないんですね。特にこのところ。一つは中央集権の弊害が出ているということと、グローバリゼーション、グローバル化がいろんなところで進んでいるのですが、乗り切れていないということ。そうすると日本はどうすればいいかと、国としてどうすればいいのかという観点がどうしても必要だと思うんです。その中で道州制を考えていくという観点が大事だと思うんですね。これは大分県、それから九州だけではなくて、日本でそういう観点が必要だと思っています。これが一点。

もう一つは、足利さんもおっしゃいましたが、どういう時代になってもですね、合併があろうとなかろうと関係なく、地域力が高まらないといけないということですね。地域力は何でできるかと、結局は個々の問題に振り返って来るんですね。人を頼らずに自分でやっていくという意識が強くなないと、地域が強くなれないと思うんですね。これが共通した問題点だと思います。そういうことを考えながら、これからも勉強をしていきたいと思っています。私からは以上です。

委員の意見もお伺いしましたので、青年層の皆さんにもう一度ご意見をお伺いしたいと思います。時間はすいませんが、一人当たり3分ということでお願いします。

Gさんお願いします。

(G)

農業の後継者は、過疎地域に住んでいる人が多いです。大分市内にもいますが、ほとんどの人が過疎地域で頑張って農業をしています。そういう人たちが新しいことをしたりだと

か、地域を盛り上げる核となっていると思います。農業の技術指導をしている振興局がありますが、3年くらい前に振興局が合併して、北部では中津と宇佐と豊後高田とが合併して、今は宇佐市にあります。僕は宇佐市なのでそんなに弊害を感じていませんが、中津は山国、豊後高田は香々地から来るとなるとかなり労力を要しますし、県の人とのつながりもなくなって、人材の育成などができなくなっています。普及員の方も、今までは果樹だったら、果樹一本で、大きなところをまわっていたんですが、落葉果樹、常緑果樹といった専門分野ができて、一人に対するパイがすごく大きくなって、つながりがなくなってきています。僕としては振興局の合併は、悪かったと思っています。人材が育ってこない地域も盛り上がっていかないですし、地域としてまちおこしとかできなくて、存続できなくなって行くんじゃないかなと思います。日本だったら東京、九州だったら福岡、大分だったら大分市といったように、県庁所在地などが人口が増えて周りが少なくなっていく。道州制になって州都が福岡になったら、大分県はそういう風になっていくのではないかと、さらに地元の宇佐市はもっと深刻になっていくのではないかという懸念があります。道州制になったら州都を是非大分にしてもらって、人を呼んだらいいんじゃないかと思えます。空港から大分県庁まで1時間半かかるというように、九州の中で大分は交通の便が非常に悪いので、そういうところを整備してもらって、道州制を迎える基盤づくり、地域の基礎をしっかりとつくって、人を育てていけば何とかなるんじゃないかと思えます。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございます。州都の問題は大問題で、各県ともうちに持ってこようと争っているんです。大分県知事は九州内で喧嘩しちゃ困るので、州都は県庁所在地には置かないようにしようという発言しています。もっといえば、私の意見ですが、EUの本部がどこにあるかというベルギーという小さな国にあるんです。こういうヨーロッパの知恵を借りなければと思っています。余談ですが。

それではHさんお願いします。

(H)

先ほどCさんの方からもあったんですが、近年の経済白書で、平成の大合併、大分の合併は、概ね失敗の旨の記述もあるとおり、色々弊害が多かったというのが国の発表としてもあったと思います。それが1点。

次に、観光にも関わっていますので海外の話をして。スイスのツェルマットという国際的な観光都市があるのですが、ここは非常に不便で、町に産業もないのですが、かなり整備された地域です。大分県では臼杵とか竹田とか日田とかもそうですが、城下町の交通整備をしているので不便なんです。その中でも竹青とかいろんなイベントを起こしながら、活気を築いているというのが現状です。この動きは単純にボランティアでやっていたりとかで資本主義でもないんですが、ボランティアが貢献することで、地域経済も活性化しているという現状があります。それもここで発表しておきたいなと思いました。

あと、九州という意味でいえば、九州観光推進機構もあるし、道路では昔から道守会議(みちもりかいぎ)というものもありますので、そういったところがこういう風にやっていると資料が欲しい。事務局にも言いたいのですが、それがないと、ここに参加しても議論の羅針盤がないので、難しいのではないかと思います。たまたま私は九州観光推進機構も道守会議も知っているのですが、そういうことです。

(高橋座長)

ありがとうございました。それではIさんお願いします。

(I)

先ほど、道州制のデメリットをあまり考えていなかったと言いましたが、デメリットも考えていて、ある程度意見も出たのですが、デメリットをメリットに変える方法を考えないといけないと思います。市町村合併も準備されていたと思うんですが、見切り発車で、議論が市民レベルまで落とし込んでいたかというところ、そうでもなかったところもあると思います。道州制は遅かれ早かれ、おそらくする方向で進むのではないかと思いますので、それであれば九州なら九州で早く準備しておくことです。九州という名前のブランドは強く、全国どこに行っても、例えば東京とか仙台に行くと、「どちらから来られましたか。」と聞かれて、「大分から。」と言ってもポカンとされてしまいますが、「九州の大分。」と言えば、「あー」と言われます。九州は他の道州制区域の候補になっているところに比べるとブランド力があると思うんですね。それを前面に押し出してやっていくことだと思うんです。道州制になると地方が廃れていくという意見もあったのですが、地域に根ざしている一人ひとりの住民が輝いて、元気にならないと地方も九州自体も力強く光り輝いていかないと思うんですね。根っこの部分では、行政に頼るのではなくて、一人ひとりが自立して、今からの社会を、日本の未来をつくっていくという意識づけがないと、どんなに良い行政サービスだったり、行政体系ができたとしても、やっぱり廃れていく一方だと思うんです。道州制というのは突き詰めていくと、個人個人がいかにして自分の魅力をアピールして、自立して自分で生活していくか、と言うところじゃないかと個人的には思います。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。Jさんお願いします。

(J)

先ほど高橋座長さんも言われてました個人個人という話からです。青年会議所も40歳で卒業ということで、自分たちが動かないと、人に頼っていたのでは前に進まないというところがあって、自分たちがどんどん引っ張っていくような形でやっていかないとという話は、前々からしておりました。こういうご時世の中で、正しい情報を判断する能力が大変必要だと思いますし、その情報の中で自分がどの方向に進んでいくかを選別していくのも必要で、それを隣人に伝えていくということも大切じゃないかと思います。メリット・デメリットがあるのではないかと思います、自分たちがやっていかないといけないというのが1点。

もう1点、九州を道州制にするのであれば、九州内の交流を密にしていけないといけないのではないかと思います。20年くらい前、私が学生時代に日中友好九州青年の船に参加させていただきました。九州8県の県費で、20代、30代の各県20名ずつ、3百数十名が、2週間ばかり、中国の方との交流を図りながら、九州の若者との交流を図りながら船泊もした思い出があります。予算の関係で10年くらい前になくなってしまったんですが、そういった小さいことだと思いますが、交流を図っていくことで、それぞれの地域地域の人となり勉強することで、次のステップに行けるといってもあるんじゃないかなと思います。市町村合併の時には、流れ的に合併していったところも数多くあるのではないかと思います、数年経って少しこういうところ変えておけば良かったとかですね、この辺りをもう少し勉強しておけば良かったと感じているところがあると思いますので、そういった意見も入れながら前に進んでいけたらなと思います。青年会議所もすすんで提言

していければと思っています。

(高橋座長)

ありがとうございました。Kさんお願いします。

(K)

市町村合併を思い出しますと、私は前津江村でした。合併して日田市になったんですが、合併の大きな原因は、財源不足であったと思います。今回の道州制もお金のことが大きな問題の一つになって道州制の動きになっているかと思っていますが、そんなにお金が必要でしょうか。私は前津江に住んで、田んぼがありますから、米や野菜があります。水も買わずに谷川の水で十分飲めます。ですから200万円あれば家族5人が経済的、物質的な豊かさはないですが、十分暮らせます。この間の日曜に子どもとさつまいもを焼いて食べました。心の豊かさはそういうことではないでしょうか。日田だけではなく日本全体が物質的な豊かさを追うのではなくて、精神的に豊かであれば、お金お金と言わなくても暮らして行けるのではないかと思います。先ほど座長が言われました国力が弱いというのは、軍隊を持つと言うことでしょうか。経済的に強くということでしょうか。国力が弱くても幸せに生活ができることの方が、大事ではないかという気がします。そうするとまた、道州制の考え方もちょっと変わってくるのではないかと思います。私は山の中に住んでいますからその程度のことしか考えていませんが、そう思っております。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。Lさんお願いします。

(L)

小さな会社ですが、材木を売りに、関東、北陸、伊勢、たいがい車でまわったり、出かけるのですが、そういうことを通して、九州はちょうど良いサイズでとても住みよいところだなと外に出てよく分かります。皆さんが話しているように、方向性としてはそういった方向なのだろうと思っていますので、各地域の市民に話をおろして早め早めに声を拾って行って、その集約でまた、皆さんと議論できたらいいなと思います。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。Fさんお願いします。

(F)

国力が何故必要かということは、別のところで議論したいと思いますが、私は国力は必要だと思います。日本全体として考えたときに活力がないことが問題です。活力を得るために九州が一つにまとまるということが、ものすごく大きな活力を得ることになると思います。観光だけ考えても広域観光を考えて、熊本や宮崎と手を結べば、色々と誘致の方法はあるわけです。九州では力を持っている人が多いので、そういう人たちがまとまってやれば、ものすごく大きな力になると思います。道州制、平成の廃県置州に向かわないといけないのではないかと思います。デメリットも資料に出っていますが、道州制に移行した場合のデメリットの解決策も立てられると思います。道州になったら県を廃止しなくてはならないというのではなくて、もっと緩やかに、九州と各県と市町村との役割をもう一回洗い出す。道州ができれば県は廃止というのではなくて、枠を取っ払った新しい方法が見つけられるのではないかと思います。

(高橋座長)

ありがとうございました。Eさんお願いします。

(E)

道州制がいつ頃施行されるのかなということと、本当に可能なのかということも考えています。言うことはたやすいのですが、いざ実行するとなると、各省庁を地方に移譲するのであれば、どこにどういう風にセッティングするのか。地方分権にするのであれば、今の県単位でやってみて、本当に上手い具合にできるのかと。その後に道州単位になるべきではないのかと思っております。道州制ありきということであれば、メリットは当然利益として皆さんに返ってきますので、道州制に移行したときのデメリットの掘り起こしをして、その解決策を皆さんで話し合っていく。いざ道州制がしかれたときにそのデメリットに対して、具体的に大分県としてこういう風にサポートしていくという、そういう話し合いも必要ではないかと思えます。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。Bさんお願いします。

(B)

皆さんの話を聞いて、内容が深く、いろんな視点から考えているなと思えました。これは国がどうあるべきかということだと思うんです。皆さん、自分なりの夢とか、目標とかビジョンとかしっかりと持っていると思うんですが、そういうことを話せるような世の中でないような気がしています。Kさんがおっしゃったように、お金で換算するのではなくて、子どもが成長したときに、この日本が生きていく上で目標が持てる、夢がもてるような世の中になればいいんじゃないかと、その手段の一つとして、道州制も一つかもしれないし、そういうものがないと、国としての成長がないような気がします。

(高橋座長)

ありがとうございました。Aさんお願いします。

(A)

今日はこの研究会に参加して大変良かったです。田舎に住んでいれば、確かにお金はあまりいらぬのかと思えます。近くで年輩の方が野菜を作っていて、海に行けば釣りが趣味の人が魚がたくさんとれたからどうぞと分けてくれれば、お金はいらぬんですよね。私も日頃はよっぽどお金を使うことがなければ、財布には1000円も入れてなくて。仕事帰りに野菜をもらえば、これを晩ご飯のおかずにとしようと、それで1日が終わるんですね。都会の人は不便だということかもしれませんが、田舎に住んでいれば、これほど住みやすいところはないと。田舎では空き家も増えて、人口も少なくなっていますが、田舎には暖かさがあるので、道州制になって州都が福岡になろうが大分になろうが、私の生活が変わることはないと思えます。

(高橋座長)

ありがとうございました。Dさんお願いします。

(D)

私は国力ということに少しふれたいと思います。これだけ日本が世界的に力を持っている中、人口がどんどん減っていくということを考えると、中国ではないですが、国力イコール人の数というところもありますので、少ない人数の中で力をどうやって集中していくかを考えたときに、道州制は一つの手なのかなと考えています。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。Cさんお願いします。

(C)

人の数のことですが、県庁がなくなるということはどうなるのかということ、政治的中心性を失うことの影響が相当あるのではないかと思います。廃藩置県で、県庁が置かれた城下町とそうでない城下町を見比べてみると、明治のはじめは、中津の方が大分より人口が多かった。ところが、県庁が大分市に置かれて政治的な中心性を大分市が持ったものですから、現状があるんだと思っています。県庁がなくなった場合どうなるかということも考えなくてはならないと思っています。

最後に、市場経済のものさしで社会を設計するのではなく、そのものさしに人と人をつなげる地域社会がどうあるべきかという目盛りも加えて、道州制のデメリットを克服して新しい社会を設計していただきたいですし、大分県もそういうことを考えながら、対応する準備をしていただきたいと思います。以上です。

(高橋座長)

ありがとうございました。青年層の皆さんのご配慮によりまして、ちょっと時間が余りましたので、委員の皆さん、ご意見がありましたら、1、2分で、いかがでしょうか。足利委員、地元ですから一言お願いします。

(足利委員)

研究会の中でのお話も、私は初めて聞くことが多くて、色々考えさせられることが多いんですけども、今日こうやって若い方々がいらっしやって、いろんな話を聞かせていただいて、別の視点や別の考え方が出てきて、とても素晴らしいなと思ってうかがわせていただきました。あわてないといけないのですが、あわてずに県民が自分のこととして考えて、私たちがどうやってこの地域で住んでいこうかと考えるような、このような場をたくさん持つことが、今から大事かなと思いました。

(高橋座長)

ありがとうございました。高橋委員いかがですか。

(高橋祐委員)

Cさんの県庁の話がありました。当時は、大分より中津の方が人口が多かった。それで思い出したんですけども、私も大分に来て、せっかくなんで学問のすすめを読んだんですが、中身は今でも通じるんです。何故かということ、それは人間の欲というか、生活というかそういうのは変わらないんですね。当時の思想で廃藩置県ができたということであれば、じゃあ今の世界情勢、日本における経済情勢全体を考えたら、今の統治のやり方があるのではないかと思います。こういう場を持って、皆さんと話が出てたいへん嬉しく思いました。この意見交換会はまだ続きますので、私は聞いて参りますけど、どのようなことがいいのかを引き続き考えて参りたいと思います。ありがとうございました。

(高橋座長)

ありがとうございました。小手川委員どうぞ。

(小手川委員)

せっかく来たので。臼杵から結構遠いんですよ。1時間半くらいかかるんですよ。日田と同じくらいですかね。中津の人口の話がありましたが、私の記憶違いだと悪いんですが、大分市に県庁ができて人口は増えなかったと思います。中津の方がずっと多かった。臼杵も多かった。中津が1番で臼杵が2番で、大分はずっとちっちゃくて、大分市に県庁ができて人口が増えなかった。いつから大分の人口が増えたかという、鉄道が通ってからのんですよ。インフラが整備されると人口集中が起こるんですよ。インフラ整備というのはメリット・デメリットが非常にあるんだなという感じがします。もう一つ、Kさんや皆さんがおっしゃってましたが、お金がなくても暮らせるんだけれども、それは人間の幸福論ですよ。豊かさとは何か、人間は何が幸福かとをずっと考えていくと、いろんな生き方があると思うんですが、自分が幸福になることは一番大事ですが、人を幸福にするのも大事ではないでしょうか。人を幸福にするというのは、自分がみんなのためにボランティアをやっても、1日24時間しかないわけですから、100人の人を幸福にするのはなかなかできないでしょう。貨幣経済というのはそのためにあって、お金を稼いで皆さんを幸福にするというのが、一つのやり方ですから、その意味で経済力というのは大事ではないかと私は思っています。

(高橋座長)

ありがとうございました。お二人がまとめをしていただいたのではないかと思います。ありがとうございました。そろそろ時間が参りました。若い皆様から貴重な意見をいただきまして本当にありがとうございました。こういう貴重なご意見は、当研究会の報告書としてまとめまして、研究会に提出したいと思っております。それからずっと話をお伺いしましたが、皆さん満足するだけ意見を述べていないという感じがいたしました。もっと意見を言いたい方がいらしゃると思いますので、メールや手紙、何でも結構です。事務局まで後ほどご連絡いただければと思います。先ほどご案内いたしました、この後市町村長あるいは一般の方々との意見交換を予定しています。場所にもよりますが、お時間の許す方は、是非ご出席をいただきたいと思います。議事については以上でございますが、そのほか何かございますか。はい、Hさん、どうぞ。

(H)

一番最初に言った、この会の括りが青年なのか、商工なのかということについては、どうなんですか。

(高橋座長)

今回は、商工ということではなくて、青年層という形でありまして、たまたま、商工の方が多かったということです。農林水産といえば、今回は水産の方はいませんね。

(中垣内課長)

補足ですが、水産の方にもお声掛けはしたのですが、残念ながら本日は都合が合わないということでご欠席です。

(高橋座長)

よろしゅうございますか。ほかございませんか。ないようですので、議事を終わります。ありがとうございました。

(中垣内課長)

最後に事務局からです。Hさんからご意見をいただいた資料の構成について、全体像が分からないと議論ができないということでした。これについては工夫してみたいと思います。ご意見ありがとうございました。

それから、住民サービスの低下について、記述が具体的でないのでよく分からないというAさんからの意見がありました。報告書の本体に書いていたのですが、その辺りをこちらにも注意書きしていなかったところがありましたので、改善したいと思います。そういうことも含めて今日は貴重なご意見ありがとうございました。

これをもちまして大分県道州制研究会意見交換会を終了いたします。

*発言内容については、単純ミスと思われる字句、重複した言葉づかい等を整理の上、作成しています。